教育事業等報告書

令和３年度

独立行政法人　国立青少年教育振興機構

国立赤城青少年交流の家

目　　次

青少年教育に関する地域力向上等のためのモデル的事業の開発

・限界突破キャンプ　・・・・・・・・・・・・・・・・　2
・地域探究プログラム　オリエンテーション合宿ｉｎ赤城　・・・・・・・・・・・・・・・・　4

防災・減災事業

・あかぎ防災キャンプ　・・・・・・・・・・・・・・・・　6

青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業

・教員免許状更新講習（選択領域１８時間）　・・・・・・・・・・・・・・・・　8
・ボランティア養成セミナー　・・・・・・・・・・・・・・・・　10
・自然体験活動指導者（ＮＥＡＬリーダー養成事業）　・・・・・・・・・・・・・・・・　12
・自然体験活動上級指導者（ＮＥＡＬインストラクター養成事業）　・・・・・・・・・・・・・・・・　14
・利用団体のための体験活動研修会　・・・・・・・・・・・・・・・・　16

子供の貧困対策

・あかぎウインターキャンプ（東光虹の家）　・・・・・・・・・・・・・・・・　18
・自立支援キャンプ（玉村・太田）　・・・・・・・・・・・・・・・・　20

子どもゆめ基金20周年記念事業

・大学生演劇Labo inあかぎ　・・・・・・・・・・・・・・・・　21

青少年の体験活動等の重要性にかかる普及・啓発事業

・親子キャンプ~ササビーと遊ぼう~　・・・・・・・・・・・・・・・・　22
・【民間企業等連携事業】 育パパ＆育ママ応援ファミリーキャンプ　・・・・・・・・・・・・・・・・　24

50周年記念事業

・「体験の風をおこそう」運動推進事業「さくらフェスタ」　・・・・・・・・・・・・・・・・　26

地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業（交流の家実施主体事業）

・群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会出展ブース　・・・・・・・・・・・・・・・・　27
・「体験の風をおこそう」運動推進事業「あかぎフェスタ２０２１」　・・・・・・・・・・・・・・・・　28

青少年教育に関する地域力向上等のためのモデル的事業の開発

「限界突破キャンプ」

１．趣旨

７泊８日の遠征型キャンプで、登山・自炊などの活動を、仲間と共に、最後までやり抜くことを通して、何事にも自信を持って取り組める力を育む。

２．事業の概要

（１）期日

令和３年７月１０日（土）～１１日（日）〈事前キャンプ〉、
令和３年７月３１日（土）～８月７日（土）＜７泊８日＞

（２）参加者

①参加対象　小学５・６年生～中学１・２年生
②参加人数　１７名
③参加者の内訳　小学５年５名、小学６年７名、中学１年２名、中学２年３名

３．企画運営のポイント

①事業を「ファースト」「セカンド」「サード」「ファイナル」の４つのステージに分け、ステージごとにねらいを設定する。特に「セカンド」ステージの活動において、他者と協力する場面や自分たちがやらなくてはいけない場面を増やし、「人の役に立つ、人から褒められる、感謝される」等の経験がたくさんできるようにする。
②全日程を通し毎日、参加者が自分を見つめる振り返りの場を設ける。
振り返りの場では、以下の２つの気づきを重視する。
（１）自分の頑張りを認め、自分への肯定的な気づきを促す。
（２）仲間との関わりの中で自分の良さに気づかせる。
③一人一人が翌日に頑張る目標を考え、目的意識を持って活動に向かわせる。
（１）自分の立てた目標が達成できたかを毎日の振り返りの場で確認する。
（２）自己と仲間との向き合い方について考えを深める子供たちの様子をスタッフが観察し、考察する。

４．日程

日程概要	プログラム	宿泊場所
7/10(土) 事前キャンプ１日目	参加者・保護者説明会、熱中症講義、仲間作り、野外炊事、登山講義	群馬県立妙義青少年自然の家
7/11(日) 事前キャンプ２日目	自然の家～妙義山（第２見晴台）登山～自然の家	
7/31(土) １日目	開会式、仲間作り、チーム旗作り、野外炊事、登山講義	国立赤城青少年交流の家
8/1(日) ２日目	交流の家～榛名富士登山～交流の家	国立赤城青少年交流の家
8/2(月) ３日目	洗濯、野外炊事、お別れ会企画、テント設営	国立赤城青少年交流の家
8/3(火) ４日目	交流の家～鍋割山・荒山・鳥居峠～赤城山分校、テント設営、野外炊事	赤城山分校（テント泊）
8/4(水) ５日目	赤城山分校～黒檜山・駒ヶ岳・鳥居峠～赤城山分校	赤城山分校（テント泊）
8/5(木) ６日目	赤城山分校～鳥居峠・荒山～交流の家	国立赤城青少年交流の家

8/6(金) ７日目	キャンプのまとめ・発表、お別れ会準備、 お別れ会（野外炊事・ボンファイヤー）	国立赤城青少年交流の家
8/7(土) ８日目	振り返り(アンケート等)、閉会式・決意表明	

５．主な活動内容

仲間づくりレクレーション

野外炊事

榛名富士登山

テント設営

鍋割山登山

黒檜山登山

キャンプまとめ

決意表明

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足１７名（１００％）

（２）参加者の声

・とっても楽しかった。　・いろいろなことを学べた、体験出来た。
・みんなとすぐ仲良くなれて楽しかった。　・いろんな人たちと楽しめた。
・みんなと協力してできた。　・団結が深まってよかった。
・登山や野外炊事などたくさんの体験ができた。
・赤城山で一番高い山に登れて嬉しかった。　・達成感がすごかった。
・登るのが大変だったけど、山頂についたとき嬉しかった、最高だった。
・助け合ってとても楽しい登山ができた。　・周りの大人達に褒められて楽しかった。

（３）成果

①「セカンドステージ」（本キャンプ１～３日目）にチーム旗作り、野外炊事、テント設営を設定したことで、チーム内で助け合いや温かい言葉掛けが生まれ、チームへの所属感が高まった。

②毎日振り返りの場を設けることで、翌日の活動に目的意識をもって活動することができた。ボランティアを中心にフリートークを行うことで、自他の頑張りに気付くことができた。

（４）課題

①グループ編成における人数が、６人だった為１日の振り返りや、野外炊事等の活動を行う際に、意見の交換や、役割分担等で滞る場面が見受けられた。滞らないためにどうすればよいか今後検討していく。

②登山等に不足の事態が起きた場合を考えると、スタッフ人数について熟考する必要があった。また、スタッフに何を担当してもらうかを明確にする必要があった。

担当：企画指導専門職付　反町　峻

青少年教育に関する地域力向上等のためのモデル的事業の開発

＜全国高校生体験活動顕彰制度事業＞

「地域探究プログラム　オリエンテーション合宿　ｉｎ　赤城」

１．趣旨

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、探究のプロセスを体験し、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを身に付ける。

２．事業の概要

（１）期日

令和３年７月１７日（土）～１８日（日）

（２）参加者

前橋市立前橋高校生徒１７名（男子３名、女子１４名）

３．企画運営のポイント

①オリエンテーション合宿の課題を「赤城山活性化プランをつくる」に設定することで、前橋市立前橋高校の「総合的な探究の時間」の教育課程と関連させ、本合宿の成果を学校で生かすことができるようにする。

②探究のプロセスごとに、指導計画とワークシートを作成することで、活動の目的や達成目標を明確にする。

③赤城山大沼周辺でのフィールドワークにおいて、前橋市地域おこし協力隊員を中心にたくさんの協力をもとに、充実した体験活動ができるようにする。

４．日程

	午　前	午　後	夜
７月１７日 （土）	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」 講師：関　洋明氏 （前橋市地域おこし協力隊） 鈴木　雄祐氏 （前橋市地域おこし協力隊）	講義・演習① 「地域理解」	講義・演習② 「課題解決の基礎」
７月１８日 （日）	フィールドワーク② 「地域課題の探究」 講師：関　洋明氏 （前橋市地域おこし協力隊） 鈴木　雄祐氏 （前橋市地域おこし協力隊） 講義・演習③ 「地域課題の探究」	講義・演習③ 「地域課題の探究」 発表 ふりかえり	

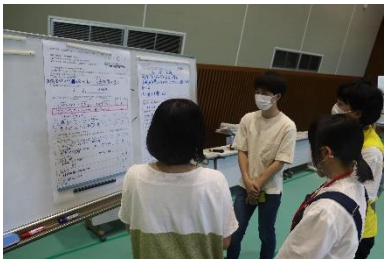
５．主な活動内容

フィールドワーク①「地域の魅力を発見」

講義・演習①「地域理解」

講義・演習②「課題解決の基礎」

フィールドワーク②「地域課題の探究」



講義・演習③「地域課題の探究」

発　表

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足１６名（９４．１％）　やや満足１名（５．９％）　やや不満０名　不満０名

（２）参加者の声

・いつもと違う環境でいろいろ学べ、良い刺激をもらえました。
・班のメンバー全員が様々な方向性で意見をのばしていって楽しかったです。
・美しい自然に見え隠れする問題を知ることができました。
・スライドを作る課程で班の人々と沢山話し合いをすることができたのでとてもよかったです。
・地域のためにできることを考えるのは大変でしたが楽しかったです。
・今の赤城には有名スポットになるための課題が沢山あるので「私たち高校生にしかできないこと」を見つけて赤城の活性化につなげたいと思いました。

（３）成果

①参加者から「大沼、覚満淵の景色、植物などの魅力、また道のせまさなどの課題を見つけることができました。」、「赤城のことを調べてみて地元の自分でも知らないことがたくさんあったことを知った。これからは今回調べたことを生かして、色々なことに目を向けていこうと思う。」などの意見があることから、赤城山の魅力や課題を見いだす上でフィールドワークは有効であり、自分の地域に目を向ける上でも有効であった。

②参加者から「自分の考えを広げていくときのコツがつかめた気がしました。」、「ブレーンストーミングのおかげで普通は出さないような意見が出せました。理想と現実を比べギャップを見つけるのがコツとわかりました。」などの意見があることから、各探究のプロセスごとに活動の目的を明確にし、ワークシートを作成したことは、情報の整理や分析、アイデア出しや発表方法を考えるための手段として有効であった。

（４）課題

①２泊３日の内容を、１泊２日で実施しているため、過密日程となり、発表準備や発表の十分な時間を確保することができない。連携校とも協議しながらプログラム時間の設定を見直していきたい。

担当：企画指導専門職　竹内　正則

防災・減災事業

「あかぎ防災キャンプ」

１．趣旨

前橋市国土強靭化地域計画の重点化施策の１つである地域の防災力の向上を目指し、これからの防災・減災の担い手である中学生を中心とした「防災ジュニアリーダー」を育成する

２．事業の概要

（１）期日

令和３年１２月１８日（土）～１９日（日）

（２）参加者

前橋市立中学校７校　生徒１１名（男子７名、女子４名）

３．企画運営のポイント

①あかぎ防災キャンプの目標を「防災力を備えた、地域社会のリーダーとなる子供の育成」に設定することで、キャンプでの学びを地域社会で生かせるようにする。

②学びごとに振り返りを行い、グループワークを取り入れ、子供たち同士で考えを共有し、「中学生の自分たちができること」を発表する。

③前橋市防災危機管理課の協力をもとに、意欲的に学び、充実した体験活動ができるようにする。

４．日程

	午　前	午　後	夜
１２月１８日 （土）	【訓練】「災害体験訓練」 【講話】「座学講習訓練」	【実習】「避難所開設」	【野外炊事】 「非常食・防災食」 【グループワーク】 「避難所での自分たちの役割を考えよう」
１２月１９日 （日）	【実習】「HUG」	「発表会」 ふりかえり	

５．主な活動内容

【訓練】「災害体験訓練」

【実習】「避難所開設」

【野外炊事】「非常食・防災食」

【グループワーク】「避難所での自分たちの役割を考えよう」

【実習】「HUG」

発　表

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足１１名（１００％）　やや満足０名　やや不満０名　不満０名

（２）参加者の声

・災害や防災に対する意識が大きく変わり、とてもためになった。
・一つ一つの活動が順を追っている感じになっていて、一つ前のことで学んだことをすぐ活かすような感じでよかった。
・実際に地震の揺れを体験したことで、どれほど恐ろしいのかがわかったし、なぜ準備をしておくのかの理由も身にしみて分かった。
・貴重な水や電気をなるべく使わずにおいしい米を炊ける方法を知れたし、材料の節約に非常に重要なことを知れた。

（３）成果

①「学んだことを周りの人に伝えたい。まず家の人に話すことでキャンプの復習をしたい。」「学校でも他の友達と意見を共有してみたい。」という意見から、学びを学校や家庭に戻ってからも生かそうとしていた。

②「今まで学んできたことと新しい考えを生み出してよい発表をすることができた。」「自分たちで考えて発表内容を作ったので、知識としてよく覚えられ、意識することができた。」という意見から、グループワークで考えを共有したことにより、発表内容が深まった。

③「実際に自分たちで開設したので、知識のみならず技術も身につけられたし、他人との協力がどれほど大事なのかも分かった。」という意見から、段ボールベッドや簡易テントの設営の仕方や備蓄用品の準備の仕方、HUG での避難誘導の仕方を学んだことが防災についての知識や技術の習得に結びついていた。

（４）課題

①延期等もあり、２泊３日の内容を、１泊２日で実施したため、活動が凝縮された分、発表後の意見交換の時間が取れなかった。質問タイムなどの時間があると、より深まった。

担当：主任企画指導専門職　塩原　基寧

青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業

「教員免許状更新講習（選択領域１８時間）」

～学級経営に活かす豊かな体験活動～

１．趣旨

様々な立場の講師からの講義を通して、学習指導要領改訂を踏まえた、最新の教育動向を学びながら、体験活動の重要性を理解するとともに、本所で行われている体験活動プログラムを実際に体験する実習を通して、体験活動の必要性や有用性を実感するとともに、教員としての資質向上を図る。

２．事業の概要

（１）期日　令和３年７月２２日（木）～７月２４日（土）

（２）参加者　教員免許状取得者　１６名

①校種　小学校　１４名　中学校　２名

②男女別　男性　８名　女性　８名

③都道府県別　群馬県　１０名　栃木県　５名　埼玉県　１名

３．企画運営のポイント

防災教育に焦点を当て、「避難所運営ゲーム」や「防災食体験」などを取り入れたプログラムを実施する。また、参加した教員が学校・学級にもちかえってすぐに実践できるプログラムである「クラフト」や「ビジュアルオリエンテーリング」を、実践しながらその効果を体験できるように実施する。

４．日程

	午　前	午　後	夜
７月 ２２日 （木）	開校式 講義「学校教育の現状と課題」 講師　群馬県教育委員会 義務教育課長　栗本郁夫	講義「熱中症予防対策講義」 講師　国立赤城青少年交流の家 主任企画指導専門職 塩原基寧 大塚製薬工場　別島徹憲 講義・実習「ﾋﾞｼﾞｭｱﾙｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ」 講師　国立赤城青少年交流の家 所長　松村純子	
７月 ２３日 （金）	講義・演習「防災教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ体験」 講師　国立赤城青少年交流の家 主任企画指導専門職 塩原基寧 日本防災士会群馬県支部長 飯塚宗夫	実習「クラフト」 講師　国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職 渡邉秀幸	演習「野外炊事（防災食体験）」 講師　国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職 渡邉秀幸
７月 ２４日 （土）	講義「学校教育における体験活動の意義」 講師　群馬大学 共同教育学部教授 西薗　大実	履修認定試験 閉講式	

５．主な活動内容

「学校教育の現状と課題」

「熱中症予防対策講義」

「ﾋﾞｼﾞｭｱﾙｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ」

「防災教育プログラム体験」

「野外炊事（防災食体験）」

「学校教育における体験活動の意義」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足１６人（１００％）　やや満足０人　やや不満０人　不満０人

（２）参加者の声

・「学校教育の現状と課題」では、ICT への取り組みの重要性を確認できました。令和の日本型学校教育の内容についても理解が深まりました。

・「熱中症予防対策講義」では、暑熱順化の大切さや、脱水状況のチェック仕方や知識、心構え等を学べました。学校に戻って職員に周知したいと思います。

・「ビジュアルオリエンテーリング」を実際に体験することにより、判断力、思考力、表現力、協力して活動する力の向上につながると実感しました。

・「防災教育プログラム体験」では、避難所運営の難しさや心構えの大切さを理解できました。自校の危機管理に生かせる内容でした。

・「クラフト体験」は楽しく活動でき、野外炊事にもつなげやすいので林間学校でも取り入れたいと思います。

・「野外炊事（防災食体験）」でのビニルご飯は初体験だったが美味しくできました。身近なものを使ってできると同時にコロナ禍での野外調理としても代用できると思います。

・「学校教育における体験活動の意義」では、体験活動の意義が、教育基本法はもちろん、学習指導要領の中でも重点的に位置付けられている理由が分かりました。我々の教育活動の根底を知ることができました。

（３）成果

①今回の講習は、防災に焦点を当てて、防災食や避難所運営、熱中症対策、コロナ禍での対応に関する体験活動を意識したプログラムを組んだ。講義では、ICT 活用や SDG s に関する内容を取り入れ、社会の変化に対応した令和の日本型教育を中心とした。これらを通して、参加者自身が、自校での防災やコロナ対応の計画等に積極的に関わろうとする意欲をもたせることができた。

②ビジュアルオリエンテーリングや防災食、クラフトなど、学校でも活用できるプログラムを紹介することで、講習での学びを実践しようとする意欲をもたせることができた。

（４）課題

①人数は１６名となったが、コロナ禍を考えると、ちょうどよい人数だった。アンケートにもあったが、部屋を個室にするなどの対応を考えてもよい。

担当：主任企画指導専門職　塩原　基寧

青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業

「ボランティア養成セミナー」

１．趣旨

国立赤城青少年交流の家の自然環境を活かした様々な体験活動や学習を通して、青少年教育施設における子供たちの体験活動を支えるボランティアとしての必要な知識・技術について研修する。

２．事業の概要

（１）期日

令和３年６月１９日（土）～６月２０日（日）【1 泊２日】

（２）参加者

①参加対象　高校生以上
②参加人数　４０名（応募６７名　キャンセル２７名）
③参加者の内訳　高校生５名、大学生２２名、社会人１３名（職員３名）
④登録者数　４０名

３．企画運営のポイント

①ボランティア活動を行う上で、必要な知識や技能を座学だけではなく、体験を通して学べるようにする。
②法人ボランティアとして活動してきた先輩学生ボランティアが、自らの体験談を発表することで、ボランティア活動について具体的なイメージを持たせ、前向きに取り組んでいこうとする態度を養わせる。
③新型コロナウイルス感染症対策として、受付時・就寝前・起床時の検温、手洗い、マスクの着用など、基本的な感染症対策の徹底を図り、安心して研修に取り組める環境とする。

４．日程

	午　前	午　後	夜
６月１９日（土）	開会行事 講義「青少年教育施設の現状と運営」 講師：国立赤城青少年交流の家 次長　鈴木　昭博	講義「青少年教育」 講師：共愛学園前橋国際大学 教授　奥田　雄一郎 演習「ボランティア活動の技術」 講師：国立赤城青少年交流の家職員 福岡　公平・反町　峻	説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」 「赤城のボランティア活動」 講師:法人ボランティア 吉池　涼香 齋藤　萌華
６月２０日（日）	講義「救命救急法」 講師：国立赤城青少年交流の家 職員　鈴木　和子 講義「ボランティア活動の意義」 講師：群馬県社会福祉協議会 主事　山岸　拓矢	説明「法人ボランティア登録制」 講師：国立赤城青少年交流の家職員 反町　峻・福岡　公平	

５．主な活動内容

青少年教育

ボランティア活動の技術

赤城のボランティア活動

救命救急法

ボランティア活動の意義

自然体験活動の特質

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足３５名（８８％）、やや満足５名（１２％）

（２）参加者の声

・体験的な学習を子どもたちに経験させることの意義について、学ぶことができました。

・ボランティア事業に参加するのが今回初めてで不安だったのですが、ボランティアをする上での心構えを学べてよかった。

・コロナの関係で、大学外で学ぶ機会が少なくなる一方で、このような対面でボランティアの取り組む姿勢を学ぶことができました。貴重な体験ができてよかったです。

・とても楽しかったです！ 年齢の異なる方たちと関わることができて、刺激になりました。また、ボランティアをしたいという気持ちが強くなりました。

（３）成果

①新型コロナウイルス感染症のために、日程変更、キャンセルが多数あったが、高校生が６名参加、大学生は７大学からであり、多様な所属、年齢間の参加があった。また、日程変更によりキャンセルが多数あったが、群馬県内の大学からの応募が１９名あり、群馬県内での広報の成果が感じられた。

②事前に資料を PDF でメール送信や、事前、事後のアンケートを Google フォームで作成、共有するなど、事務作業の効率化を図った。

（４）課題

①Google フォーム、メールでの連絡が一般化されていない現状もあり、参加者との連絡等で手間が増えてしまう場面もあったため、ICT の活用の場面と、実際に記入してもらう場面の使い分けを精査していく必要がある。

②群馬県内の学生の参加をより増やしていくために、コロナ禍ではあるが、来年度に向けて、早期から県内大学へ広報計画を立てていきたい。

担当：企画指導専門職付　反町　峻

青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業

「ＮＥＡＬリーダー養成事業」

１．趣旨

ボランティア養成セミナーの受講者向けのスキルアップ講習として、楽しく安全に活動を指導するための自然体験活動指導者（ＮＥＡＬリーダー）を養成する。

２．事業の概要

（１）期日

令和３年６月 26 日（土）～６月 27 日（日）【１泊２日】

（２）参加者

①参加対象　ボランティア養成セミナー受講者
②参加人数　23 名（申込 35 名　キャンセル 12 名）
③参加者の内訳　高校生３名、大学生９名、社会人 11 名（職員４名）
④修了者数　22 名（1 名部分受講）

３．企画運営のポイント

①ボランティア養成セミナー直後で、ボランティア活動や自然体験活動への活動意欲に溢れている時期に開催することで、参加者の確保を図る。
②ボランティア養成セミナーからのスキルアップという位置づけで、指導者として必要な知識や技能を座学だけではなく、実践を通して学べるようにする。
③実習や実技において、参加者同士で話し合ったり、関わったりし、交流を深め、相互学習する時間を意図的に設ける。
④新型コロナウイルス感染症対策として、受付時・就寝前・起床時の検温、手洗い、マスクの着用など、基本的な感染症対策の徹底を図り、安心して研修に取り組める環境とする。

４．日程

	午　前	午　後	夜
6 月 26 日（土）	開講式 【説明】「NEAL 制度ガイダンス」 主任講師：福岡公平 【実技】「自然体験活動の技術」 講師：赤城職員 福岡公平・反町峻	【講義】「対象者理解」 講師：群馬大学准教授 大島みずき 【講義・演習】「自然体験活動の指導」 講師：大東文化大学教授 中村正雄	【実技】「自然体験活動の技術」 講師：菅原遊
6 月 27 日（日）	【講義・演習】「自然体験活動の特質」 講師：菅原遊	【説明】「NEAL 制度ガイダンス」 主任講師：福岡公平 閉講式	

５．主な活動内容

「自然体験活動の技術」

「対象者理解」

「自然体験活動の指導」

「自然体験活動の技術」

「自然体験活動の特質」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

事業全体：満足 23 名（100%）

（２）参加者の声

・講師の方々がとても分かりやすく伝えてください、心から感謝申し上げたい。
・参加者の方や職員の方と楽しく関わりながら、活動を通して深く学ぶことができて良かった。
・「体験的に学ぶ」良さを、身をもって体験しながら学ぶことができた。
・いろいろな人と考えを共有できてよかった。

（３）成果

①高校生、大学生、社会人がバランスよく参加し、多様な所属からなる参加者が集まった。ボランティア養成セミナー実施後に、そのスキルアップ講習としての位置づけで実施することの成果が得られた。また、話し合い活動を意図的に取り入れることで、参加者同士で学び合う姿勢が見られた。

②NEAL 演習Ⅲの受講生がスタッフとして携わった。運営スタッフとしての役割だけに留まらず、NEAL 有資格者の先輩として、参加者と積極的にコミュニケーションをとっていただいた。このことで、参加者たちが、具体的に指導者像を描くことができた。

（４）課題

①新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、ボランティア養成セミナーの日程を変更したことで、キャンセルが多数あった。事業そのものの魅力を高めたり、NEAL 資格の魅力や NEAL 資格取得法人ボランティアの活躍を発信したりして、幅広く参加者を募る方法を検討する必要がある。

②NEAL 事業については専門性の高い講師陣を迎える必要がある。今回、2 名の講師を初めて依頼し、参加者から非常に高い満足度を得ることができた。今後も、これまでの講師に囚われることなく、講師候補者のリストアップを行い、質の高い事業実施に努める必要がある。

担当：主幹兼事業推進係長　福岡　公平

青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業

「ＮＥＡＬインストラクター養成事業」

１．趣旨

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、①自然体験活動におけるプログラムの企画・運営・評価し、②自然体験活動指導者（ＮＥＡＬリーダー）のに対して自然体験活動におけるプログラムのねらいを伝え、指導方針の共通理解を図り、③自然体験活動におけるプログラムを直接指導し、④自然体験活動における安全管理を行う、自然体験活動上級指導者（ＮＥＡＬインストラクター）を養成する。

２．事業の概要

（１）期日

令和４年１月８日（土）～１月１０日（月・祝）【２泊３日】

（２）参加者

①参加対象　ＮＥＡＬリーダー資格保有者でかつ演習Ｉが修了している者
ＮＥＡＬインストラクター資格保有者で更新を希望する者
自己研鑽をつみたい者

②参加人数　12 名（資格取得希望９名、資格更新２名、自己研鑽１名）

③参加者の内訳　大学生３名、社会人９名（職員４名）

３．企画運営のポイント

①「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、各科目の専門家とともに専門的な研修内容の企画実施に努めるようにする。

②新型コロナウイルス感染症対策として、受付時・就寝前・起床時の検温、手洗い、マスクの着用など、基本的な感染症対策の徹底を図り、安心して研修に取り組める環境とする。

４．日程

	午　前	午　後
１月８日（土）	開講式 【講義】「学校教育における体験活動」 講師：西薗大実　教授	【講義】「対象者理解」 講師：成田秀幸　医師 【実習】「自然体験活動の特質」 講師：佐藤陽介　氏
１月９日（日）	【実習・実技】「自然体験活動の指導」、「自然体験活動の技術」 講師：佐藤陽介　氏	【実習】「自然体験活動の指導」、「自然体験活動の技術」 講師：佐藤陽介　氏 【講義】「自然体験活動の安全管理」 講師：青木康太朗　准教授
１月 10 日（月）	【演習】「自然体験活動の企画・運営」 講師：青山鉄兵　准教授	【演習】「自然体験活動の企画・運営」 講師：青山鉄兵　准教授

５．主な活動内容

「学校教育における体験活動」

「対象者理解」

「自然体験活動の特質」

「自然体験活動の技術」

「自然体験活動の安全管理」

「自然体験活動の企画・運営」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

事業全体：満足 12 名（100%）

（２）参加者の声

・普段、別の施設で活動しているので、今回、赤城に来ることができてよかった。職員の方々、小学校の先生や大学生法人ボランティアなど、幅広い人たちと同じ場にいて、たくさん刺激を受け、とても良い経験になった。

・各分野の専門家の講義を聞けて、とても良かった。今後の参考になった。

・様々な立場の方と共に学び、交流し、充実した３日間となった。

（３）成果

①９名が資格取得希望者として受講し、全員、認定試験に合格し修了した。また、２名が資格更新希望者として受講した。

（４）課題

①定員充足に至らなかったことから、参加者確保に向けた取組が課題である。NEAL リーダー資格取得者がボランティア活動に来所する度に、本事業の日程と事業内容の濃さ（事業の企画運営のポイントを学べたり、特別な配慮を要する参加者の対応を学べたりする等）を伝えるなどして、参加を促す必要がある。

②NEAL 事業については専門性の高い講師陣を迎える必要がある。今回、2 名の講師を初めて依頼し、参加者から非常に高い満足度を得ることができた。今後も、これまでの講師に囚われることなく、講師候補者のリストアップを行い、各科目の専門家とともに専門的な研修内容の企画実施に努める必要がある。

担当：主幹兼事業推進係長　福岡公平

青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業

「利用団体のための体験活動研修会」

１．趣旨

【第１・２回】

国立赤城青少年交流の家を利用する団体の引率者が、施設の利用方法や登山活動の内容を理解するとともに、実際に登山を体験することで安全に活動するためのポイントをつかむ。

【第　４　回】

国立赤城青少年交流の家を利用する団体の引率者が利用の仕方や活動プログラム、各種提出書類の書き方をオンラインで説明することで、施設の利用方法や各プログラムの内容を理解する。

２．事業の概要

（１）期日

第１回　令和３年５月　８日（土）
第２回　令和３年５月１５日（土）
第３回　令和３年８月１８日（日）　※新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
第４回　令和４年３月１７日（水）　※オンライン開催

（２）参加者

第１回　２３名（　８ 校 ）
第２回　２４名（１３団体）
第４回　９名（　５ 校 ）

（３）参加内訳

第１回　小学校１９名、中学校　４名
第２回　小学校　３名、中学校１５名、ボーイスカウト６名
第４回　高等学校９名

３．企画運営のポイント

【第１回】

①登山指導講師として、日本山岳会群馬支部長の根井先生を講師に招き、安全に登山をする上で、リスク回避などのポイントを実践を通じて具体的に学べるようにする。
②登山口や山頂、下山後の一連の流れを体験をすることで当日の活動をイメージできるようにする。

【第２回】

①野外炊事の準備から片付け・点検までの一連の活動やクラフトを体験することで、当日の指導上の留意点を確認できるようにする。

【第１・２回共通】

①施設見学では、所内を実際に歩き、使用方法や新型コロナウイルス感染症対策などのポイントを具体的に伝える。
②利用団体毎に当日の活動に即した対応ができるよう、事前打ち合わせの時間を設ける。
③YouTube 動画配信サービスを行い、希望団体には研修会当日の内容を要約し動画を配信し、参加できない利用者にも活動内容を理解できるようにする。

【第４回】

①令和４年度４月利用団体（高等学校）を対象に、出張だと時間的に余裕がない引率者が参加しやすいオンライン開催とする。
②参加者には、利用の手引きを印刷していただき、手元に置くことで、パワーポイントの説明資料を理解しやすくするように配慮をする。
③参加する各学校に、事前に質問事項を出してもらうことで、当日の質疑応答の時間を有効に使えるようにする。（基本的なことの共通理解を図る）
④全体説明後に、個別の説明時間を設け、個別対応を行う。

４．日程

	午　前	午　後
令和３年 ５月８日（土）	開会行事、施設見学 施設利用説明、登山体験	登山体験 事前打ち合わせ
令和３年 ５月１５日（土）	開会行事、施設見学 施設利用説明、野外炊事	選択プログラム （ネイチャークラフト、焼き板、スプーン・フォーク、葉っぱで作ろう） 事前打ち合わせ
令和４年 ３月１７日（水）	１４：００～１５：３０（オンライン） 開会行事、施設利用説明、全体質疑応答、個別質疑応答	

５．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

第１回　満足１９名（８３％）やや満足４名（１７％）やや不満０名　不満０名
第２回　満足１７名（８１％）やや満足４名（１９％）やや不満０名　不満０名
第４回　満足　９名（１００％）　やや満足０名　やや不満０名　不満０名

（２）参加者の声

【第１回】
・実際の登山コースを案内していただき、引率のイメージを持つことができた。
・疲れるとは思うが、炊事も同日に体験できたらいいと思った。

【第２回】
・活動がスムーズに進んで時間が早まった際は、時間を繰り上げてくれると助かる。接触の機会が短縮されるのと、遠方から来ている人にとって時間の確保に繋がる。

【第４回】
・当日一緒になる学校の引率者と簡単な打ち合わせができたので、見通しを持つことができた。

（３）成果

【第１回】
①参加した先生方自身が登山プログラムを体験することで、安全登山の指導のポイントやリスク回避などのポイントを理解してもらえることができた。

【第２回】
①参加者から「体験したことで指導への不安がなくなった。」「選択プログラムの動画や説明が分かりやすかった。」という声が多かった。

【第４回】
①オンライン開催にすることで、学校職員が、年度末の忙しい時期に参加しやすくなった。また、遠方の学校（東京都、新潟県）も参加することができた。

（４）課題

【第１回】
①休日に行ったが、平日に実施した方がよいという意見も多くあった。学校としては出張扱いにしたいという声もあり、参加できない団体もあった。平日も検討していく。

【第２回】
①野外炊事では、時間短縮のため、かまど班と調理班に分けて活動を行った。かまど班の活動が早く終わり手持ち無沙汰になってしまった。野外炊事体験時間が予定より早く終わったことを考えると、かまども調理も参加者全員に体験していただく方が、当日の指導により生かせるので次回は両方体験に変更する。

【第４回】
①オンライン開催だと、利用実績のない団体は、施設利用の仕方や施設内の動線の確認等ができない。オンラインでも施設見学ができる資料（動画・パワーポイント資料）があると、引率者が具体的な指導のイメージを持ちやすくなる。

担当　企画指導専門職　渡邉　秀幸

子供の貧困対策

「あかぎウインターキャンプ」

～児童養護施設対象事業～

１．趣旨

国立青少年教育振興機構の各施設において、児童養護施設の子供を対象に、自然体験等の活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、子供たちの基本的な生活習慣の確立や自立する力を身につけることを目指す。また、子供同士のふれあいや職員との交流を深め、自然体験や食育、ものづくり体験などを行うことにより、心身の健康増進や子供の健全育成を図る。

２．事業の概要

（１）期日　令和３年１２月１１日（土）～１２月１２日（日）【１泊２日】
（２）参加者　児童養護施設「東光虹の家」　１８名
①引率者　６名
②参加者　１２名（小学生４名、中学生４名、高校生４名）

３．企画運営のポイント

① 児童養護施設の子ども達のやってみたいことを踏まえ、基本的生活習慣の確立や心身の健康増進を意識し、体験を中心に据えたプログラムを構成する。

② 子供たちがより主体的に活動できるように、引率者と連携しながら班を編成する。

③ 「自立」「心身の健康増進」が事業の目的であることをスタッフ全員で共通理解したうえで、「どうかかわるべきか」を考えながら事業の運営を進める。

４．日程

	午　前	午　後
１２月 １１日 （土）	受付 始まりの会 アイスブレイク オリエンテーション 昼食	赤城の森を探検しよう！ クリスマス飾りを作ろう！ 夕食 火を囲んで星空を見よう！ 入浴 就寝
１２月 １２日 （日）	朝のつどい 朝食 遊びリンピックをしよう！ 野外炊事をしよう！	お別れの会 おわりの会 解散

５．主な活動内容

「赤城の森を探検しよう！」　　「クリスマス飾りを作ろう！」　　「火を囲んで星空を見よう！」

「朝のつどい」　　「遊びリンピックをしよう！」　　「野外炊事をしよう！」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足：１７人（９４％）　　やや満足：１人（６％）
やや不満：０人（０％）　　不満：０人（０％）

（２）参加者の声

・友達との絆が深まった。（参加者）
・同じ班の人とだけじゃなくて、違うことも話したりと、コミュニケーションが高まったと思う。（子ども）
・楽しかった、自然に触れることができてよかった。（参加者）
・日頃経験できないことを経験し、お互い絆が深まりました。（引率者）
・競争しあいながら楽しめ、助け合いの精神が培われました。（引率者）
・自分からコミュニケーションをとることが少ない子も、積極的に話している場合がみられてよかったです。（引率者）
・普段嫌いな食べ物が多い子も自分たちで調理して特別感があったのか、おいしく食べることができた。グループで協力することで団結力も生まれた。（引率者）

（３）成果

①参加した子どもから「絆が深まった。」「コミュニケーション能力がついた。」「目標に向かって頑張れた。」などの感想があることから、自立する力の素地を培えた。
②参加した引率者から「助け合いの精神が培われた。」「積極的な場面が見られた。」「団結力も生まれた。」などの感想があることから、引率者と連携して班編成したことは子どもたちの自発性を引き出すのに有効であった。

（４）課題

①子どもたちの状況によって時間通りにプログラムが進まないこともあるので、余裕を持ったプログラムを組む必要がある。
②中学生や高校生は、来たくても部活やアルバイトなどの関係で来られない場合もあるので日程等考慮する必要がある。

担当：企画指導専門職　竹内　正則

子供の貧困対策

「あかぎオータムキャンプ」　　（玉村町母子会連携）
「あかぎウインターキャンプ　Part2」（太田市母子会連携）

１．趣旨

国立赤城青少年交流の家において、ひとり親家庭の子供たちを対象に、自然活動等の活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、子供たちの基本的な生活習慣の確立や自立する力を身につけることを目指す。自然体験や食育、工作体験などの活動をする中で、子供たち同士のふれあいを深めたり、保護者同士の交流を図ったりする活動を通して、心身の健康増進や子供の健全育成を図る。

２．事業の概要

（１）期日・内容

【あかぎオータムキャンプ】

・令和３年９月１２日（土）１３日（日）→令和４年３月１９日（土）出前事業
・「木の名札づくり」を実施。

【あかぎウインターキャンプ Part2】

・令和４年２月１２日（土）１３日（日）→令和４年２月１２日（土）出前事業
・「チョコレートづくり」を実施。

（２）参加者

【あかぎオータムキャンプ】　　参加者　８名（小学生８名）
【あかぎウインターキャンプ Part2】　参加者　５家族１２名

３．成果と課題

（１）参加者の声

【あかぎオータムキャンプ】

・「簡単に木の名札ができた。今度はドングリを拾ってつけたいな。」など、子供の創作意欲を刺激することができた。

【あかぎウインターキャンプ Part2】

・チョコレートの材料を渡したとき、「こんなにチョコレートの種類がある。うれしい。６月の企画には参加したい。」などの、来年度の事業につながる発言があった。

（２）成果

【あかぎオータムキャンプ】

①２年間の連携を通して、「国立赤城青少年交流の家」の広報とともに自然体験活動の重要性を普及啓発することができた。

【あかぎウインターキャンプ Part2】

①コロナ禍ということをふまえ、連携先との連絡を密にする中で、太田母子会の「赤城青少年交流の家に行って、母子会の親子たちに体験活動を提供したい」という思いをより深く知ることができた。

（３）課題

【あかぎオータムキャンプ】

①コロナ禍という現状を踏まえ、連携先と参加者が安心して参加できる事業内容の精選が必要である。

【あかぎウインターキャンプ Part2】

①「母子を分離した活動」と「母子で協力して行う活動」の時間配分をどのようにしていくか、今後、連携先とのさらなる協議が必要である。

担当：企画指導専門職　渡邉　秀幸

子どもゆめ基金２０周年記念事業

「大学生演劇Ｌａｂｏ　ｉｎ　あかぎ」

１．趣旨

講師によるワークショップを通して演劇技術の向上を図るとともに、演劇に対する理解・考えを深める。演劇に携わる大学生同士の交流を通して、新型コロナウイルス感染拡大の影響を強く受けた演劇を赤城から盛り上げるきっかけとなる場とする。

２．事業の概要

（１）期　日　令和４年２月２６日（土）、２月２７日（日）【オンライン２日】

（２）参加者　大学生９名（３大学、男子７名、女子２名）

３．企画運営のポイント

①役者・脚本・演出・裏方等、参加者の役割や興味関心に合わせて、演劇に対する幅広い関心度に対応できるような講師を選定し講義を依頼する。

②県内の演劇に関わる学生の繋がりが生まれるよう、演劇ｻｰｸﾙや演劇部のある大学に幅広報を行う。

※オンライン開催で実施

４．日程

	午　後		午　後
２月 ２６日 （土）	開会、アイスブレイク 講義「リアリズム演劇について」 演習①「脚本読み合わせ・読解」 質疑応答・情報交換	２月 ２７日 （日）	演習②「脚本読み合わせ・読解」 質疑応答 情報交換 閉会

５．主な活動内容

「講義『リアリズム演劇について』」

「質疑応答・情報交換」

「集合写真」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足：８人（８９％）　　やや満足：１人（１１％）　やや不満・不満：０人（０％）

（２）参加者の声

・座学の内容がとても面白いと感じました。創作の参考にできたらいいなと思いました。

・台本の読み方、考え方について理解が深まりました。

・今まで演劇を理論的に学んだ事がなかったので、新しく知ることばかりでした。今後の演劇の活動に活かしたいと思います。

（３）成果

①「座学の内容が面白い。」「台本の読み方、考え方について理解が深まった。」「今まで演劇を理論的に学んだ事がなかったので、新しく知ることばかりでした。」などの感想から、演劇に対する理解・考えを深められたようである。

②１日目のふりかえりで「他大学の学生と情報共有する機会はなかなかなかった。」との声が聞かれたことから、複数の大学で情報交換する場を設けたことは、演劇に関わる学生同士の繋がりをつくるうえで有効であった。

③社会情勢により、学生の課外活動に大きく制限がかかってしまったが、オンライン開催することにより、学生の学びの場、交流の場をつくることができた。

（４）課題

①企画の段階から社会情勢を見ながら開催方法を複数の方法で考えておく必要がある。

②オンライン開催をし、１つの部屋で複数のパソコンを操作する必要がある場合、ヘッドフォンやイヤフォンを使用するなどハウリング対策をする必要がある。

担当：企画指導専門職　　竹内　正則

青少年の体験活動等の重要性にかかる普及・啓発事業

「　親子キャンプ　」

～ササビーと遊ぼう～

１．趣旨

「冒険と創造の森を活用した運動プログラムの開発委員会」で開発した、「幼児期の遊びを中心とした運動プログラム」を幼児の発達段階に応じ、親子で実施する。また、親子でハイキング等野外活動を通じて、自然体験の楽しさに触れるとともに、親子の交流を深める。

２．事業の概要

（１）期日

令和３年１０月２３日（土）～２４日（日）

（２）参加者

①参加対象　幼児（年中、年長を含む）とその保護者　※兄弟がいる場合も可

②参加人数４８名（１４家族）

３．企画運営のポイント

①自然体験遊びでは、「幼児期の遊びを中心とした運動プログラム」を取り入れてササビー広場で親子一緒に自然に触れ合う。

②クラフトでは、ハロウィンにちなんだペーパークラフトを親子で一緒に協力することで、親子の交流の時間を楽しめるようにする。

③「長七郎山登山」では、親子で一緒に自然を感じながら、途中のポイントでボランティア達とも触れ合う機会を設ける。

４．日程

	午　前	午　後	夜
１０月 ２３日 （土）		開会式 自然体験遊び、ササビー広場で遊ぼう クラフト体験 （ハロウィンペーパークラフト）	登山安全確認 キャンドルファイヤー
１０月 ２４日 （日）	赤城山ハイキング（長七郎山）	閉会式	

５．主な活動内容

「親子でテント設営」

「親子でテント設営」

「ササビー広場で遊ぼう」

「クラフト体験」

「キャンドルファイヤー」

「赤城山ハイキング」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足１１名（７８％）　　やや満足３名　　やや不満０名　　不満０名

（２）参加者の声

・体を動かす機会がたくさんあって、子供の運動不足の解消になりました。
・昨年参加して、とても楽しかったので今年も参加しました。
・感染症対策含め、とてもよかったです。
・運動や工作等、こどもが真剣になれることがいっぱいあり、子供たちも楽しく取り組めました。
・親子共にやったことのない内容ばかりで良い経験となりました。

（３）成果

①「自然体験、ササビー広場で遊ぼう」では、親子で楽しそうに遊ぶ姿や自然の中で様々な運動する姿が多く見られたことからプログラムの内容は良かったと考えられる。
②親子で協力してハロウィンペーパークラフトを制作し、ボランティアの協力も有り、楽しそうに交流していた。
③ポイントでボランティアとミニゲームを楽しみながら、登ることができた。また、親子で協力しながら全家族登山することができた。

（４）課題

①募集予定家族数より多くなり、食堂や入浴の時間が慌ただしくなってしまった。幼児対象の事業は、余裕を持った時間配分を考えていく。
②家族ごとに、プログラムのとらえ方の違いがあるため、夜のボンファイヤー等、当日に柔軟の対応できるよう企画していきたい。

担当　企画指導専門職　小林　大輔

青少年の体験活動等の重要性にかかる普及啓発事業（民間企業等連携事業）

「育パパ＆育ママ応援ファミリーキャンプ in 国立赤城青少年交流の家　秋」

１．趣旨

当機構は、体験活動を通した青少年の自立を目指し、幼児期からの体験活動や基本的な生活習慣の育成について推進するとともに体験の場と機会のさらなる充実について取り組んでいるところである。本事業は、その具体的な事業の一つとして、民間企業等との連携による教育事業等の質的・量的な拡充を図るため、民間企業との共催事業を実施し、民間企業と連携したモデルを構築する。

２．事業の概要

（１）期日

令和 3 年 11 月 6（土）～7 日（日）

（２）参加者

①参加対象　小学校 1 年生～3 年生を含む親子

②参加人数　59 名（19 家族）

保護者 29 名　小学生 23 名　幼児 5 名　乳児 2 名

東京都 12 家族、埼玉県 6 家族、神奈川県 1 家族

３．企画運営のポイント

①「長七郎山ハイキング」、「たき火体験」、「森のお弁当作り」などを通して、赤城山の大自然の中で、秋の自然を満喫する機会と場を提供する。

②家族内の交流を重視し、親子でゆっくりとした時間を過ごせるような活動プログラムやプログラム構成に配慮する。

③登山 YouTuber のかほさんをゲスト講師として招き、ハイキングや登山のお話を通して、山の魅力を伝える。

④地元の近隣施設の連携強化も踏まえ、赤城山南麓に位置する農園で「さつまいも掘り体験」を実施し、赤城周辺の魅力を参加者に伝える。

⑤新型コロナウイルス感染症対策として、1 家族 1 部屋の配室、就寝前・起床時の検温、手洗い、マスクの着用など、基本的な感染症対策の徹底を図る。

４．日程

	午　前	午　後	夜
11 月 6 日 （土）	浅草駅発－（特急りょうもう号）赤城駅着	長七郎山ハイキング 入所式	かほさんの登山のお話 たき火体験
11 月 7 日 （日）	森のお弁当作り 退所式 さつまいも掘り体験	赤城駅－（特急りょうもう号） 浅草駅着	

５．主な活動内容

「車掌さんになって
写真を撮ろう」

「長七郎ハイキング」

「登山のお話」

「たき火体験」

「朝のつどい」

「さつまいも掘り体験」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足　11 家族（58%）、やや満足　8 家族（42%）

（２）参加者の声

・合宿を思い出すような、貴重な体験をしました。娘は、このような団体旅行は初めてで、どうなるかと思っていましたが、思ったより楽しんでいたし、色々頑張っている姿を見ることができて良かったです。

・子供が喜ぶ姿が見られてよかったです。スタッフさん、ボランティアの皆さんが優しくて、子供も話しやすく楽しんでいる姿を見ることができて、父親として大変良かったです。

・来年も参加したいです。こういう主旨のイベントは素晴らしいので、続いていくことを希望します。

・かほさんのお話は、分かりやすくて、とても楽しかったです。４０分では短かった。いろいろと用意していただいたお話を全て聞きたかったです。

・去年と比較すると、簡単なルートの山への変更や、ナイトハイクがないなど、少し物足りなかった。

（３）成果

①　新型コロナウイルス感染症の拡大により、実施可否について再三検討を行ったが、定員を超える申し込みがあったり、コロナ禍で自然体験などを家族で楽しむ時間がとれなかったから参加した家族が多かったりと、体験活動の機会と場を欲している状況が伺え、そのニーズに応える事業が実施できた。

②　ゲスト講師として登山 YouTuber のかほさんを招いたことで、プログラム内容が充実したとともに、ゲスト講師の SNS 媒体を活用した広報を通して、交流の家の認知度向上にもつながった。

（４）課題

①　大多数が、青少年教育施設で宿泊をすることが初めての家族であることから、売店の有無や新型コロナウイルス対策用の寝具対応など、丁寧な事前案内をする必要がある。

担当：主幹兼事業推進係長　福岡　公平

開所５０周年記念事業

「さくらフェスタ」

１．趣旨

富士見地区をはじめ前橋市及び周辺地域の人々に本施設が開所５０周年を迎えたことを広報したり、体験活動の意義や重要性を深めたりするために、施設内で咲いている桜の観賞や体験活動を提供する。

２．事業の概要（期日と参加者）

	内容	期日	参加人数
1	オープニングセレモニー	4 月 3 日	180
2	ポイントクイズラリー	4 月 4 日～10 日	233
3	クロージングセレモニー	4 月 11 日	26
	合　　計		439

３．企画運営のポイント

①第 1 駐車場前、旧守衛所に受付を設けて、消毒や検温を用意し、新型コロナウイルスの対策を行い、体験活動を提供する。

４．事業の様子

「コロナウイルス感染症対策」

「市立前橋高校吹奏楽部演奏」

「ササビーとの記念撮影」

５．成果と課題

（１）成果

①事前の体調の確認と検温、消毒を受付で行い、感染症対策に配慮して実施できた。

②桜がとても綺麗に咲く時期に開催できたので、参加者が桜を楽しめた。

（２）課題

①全職員が係る事業なので、早めの役割分担、共通理解が必要である。

②長期にわたるイベントは、ボランティアの協力を呼びかけていくことが大切である。

担当　主任企画指導専門職　塩原　基寧

地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

「群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動推進事業」

１．趣旨

群馬県における子供たちの体験活動を推進するとともに、「体験の風をおこそう」運動を広く普及することを目的として、群馬県教育委員会及び学校教育関係者並びに青少年団体による実行委員会を組織し、実行委員の団体及び関係する団体と連携しながら体験活動の場を提供する。

２．事業の概要（期日と参加者）

	参加事業名	期日	参加人数	会場
1	赤城山トレイルリレーマラソン	5/5	186	国立赤城青少年交流の家
2	群馬県市町村普及啓発説明会	6/24	7	国立赤城青少年交流の家
3	ぐんだいで遊ぼう	8/8	23	オンライン
4	赤城山トレイルランニングセミナー	10/16～10/17	38	国立赤城青少年交流の家
5	子どもゆめ基金募集説明会	10/20	15	国立赤城青少年交流の家
6	アウトドアゲーム体験会	10/24	89	いせさき市民の森公園
7	MAESOU ディスタンスカーニバル	2/26	149	前橋総合運動公園
	合　　計		507	

３．企画運営のポイント

①新型コロナウイルス感染症の国や群馬県の動向を考慮しながら、可能な限り、体験活動の機会と場の提供に努める。

４．事業の様子

「群馬県市町村普及啓発説明会」

「子どもゆめ基金説明会」

「赤城山ﾄﾚｲﾙﾘﾚｰﾏﾗｿﾝ」

５．成果と課題

（１）成果

①新しく加盟した構成団体との共催事業を通して、新たな参加者層に対し、「体験の風をおこそう」運動の普及・啓発を図ることができた。

（２）課題

①新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、引き続き、県内の多くの子供たちに体験活動の機会と場を提供していきたい。

担当　主幹兼事業推進係長　福岡　公平

地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

あかぎフェスタ２０２１

１．趣旨

「体験の風をおこそう」運動を広く普及することを目的として実施する。群馬県内青少年教育施設及び青少年団体により組織された実行委員会が主体となり、赤城青少年交流の家を会場に開催し、小学生・幼児等の親子を対象に子供たちの「体験活動」を推進する。

２．事業の概要

（１）期日　令和３年１０月９日（土）～１０月１０日（日）（１泊２日）

（２）参加者

①参加対象　幼児・小学生等を含む家族・親子

②参加人数　宿泊　１２９名（３９家族）

③宿泊者の内訳　保護者６３名、小学生４５名、幼児１７名、３歳未満児１名（群馬県内３９家族）

３．企画運営のポイント

・群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会構成団体と連携して企画・実施する教育事業として位置づける。

・家族、特に子供たちに、多様な遊び、体験の機会と場を提供するとともに、家族でゆっくりと楽しい時間を過ごす１泊２日の宿泊を伴う事業とする。

・「体験の風をおこそう」運動応援団の池谷直樹さんを招聘し、体操パフォーマンスや体操教室を実施する。

・法人ボランティアが、これまで培った知識・技能・経験を活かして、参加者が楽しめるように自主企画し運営するブースを設け、より実践的な力を養う機会とする。

４．日程

	午　前	午　後	夜
１０月 ９日 （土）		開会式 夕食	池谷直樹さんの体操パフォーマンス 入浴 就寝
１０月 １０日 （日）	朝食 オープニング ドローン教室 体験活動ブース（13 出展） 体操教室	昼食 「体験の風をおこそう」運動応援団任命式 クロージング（市立前橋高校吹奏楽部）	

５．主な活動内容

「体操パフォーマンス」

「オープニング」

「体操教室」

「任命式」

「体験活動ブース」

「市立前橋高等学校吹奏楽部」

６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足　37 家族（94.9%）　やや満足 2 家族（5.1%）やや不満０家族　不満０家族

（２）参加者の声

・感染症対策をしっかりとられていたので、とても安心して参加できました。
・イベントがほとんどない中、子供たちに色々な体験をさせていただきありがとうございました。
・子供が自分から着替えや上履きを用意するようになりました。成長を感じることができました。
・子供のレベルに合わせた体操教室の指導方法が、非常によかったです。手作り体験も子供の創作意欲をかきたたせてよかったです。

（３）成果

①赤城青少年交流の家が主催となり、実行委員会構成団体である群馬県青少年会館、市赤城少年自然の家、日本ボーイスカウト群馬県連盟、赤城自然園、まえばしCITYエフエムの５団体がブース出展に協力したり、食堂と社会福祉法人えんがテイクアウトブースを出店したりするなど、様々な団体と連携して取り組むことができた。
②池谷直樹さんのパフォーマンスや体操教室（２回：４５名参加）に興味があり参加した家族が多かったことから、応援団の招聘が集客に大きな効果があった。
③コロナ渦の中による群馬県内の宿泊者限定の実施であったが、規模が縮小されたが、39 家族の参加があり、そのうち 20 家族が初めての参加者だった。

（４）課題

①音響等（室内も野外も）は、次年度のために必ず記録を残し、共有できるようにしておく。
②早めの準備を心掛け、職員、ボランティア、実習生の役割分担を事前、事中、事後と明確にし、共有できるようにする。

担当　主任企画指導専門職　塩原　基寧
主幹兼事業推進係長　福岡　公平

令和３年度　国立赤城青少年交流の家職員

所　　長	松村　　純子
次　　長	鈴木　　昭博
主任企画指導専門職	塩原　　基寧
企 画 指 導 専門職	渡邉　　秀幸
企 画 指 導 専門職	竹内　　正則
企 画 指 導 専門職	小林　　大輔
企 画 指導専門職付	反町　　峻
主幹兼事業推進係長	福岡　　公平
事　業　推　進　係	成清　　裕史
事　業　推　進　係	小林　久瑠美
事　業　推　進　係	阿佐美　幸子
事　業　推　進　係	吉田　　賢
事　業　推　進　係	髙田　　真美
事　業　推　進　係	松井　莉乃羽
総　務　係　長	吉田　　真祐
総　務　係	鈴木　　和子
管　理　係　長	長谷川　敦子
管　理　係	朝日　麻理奈
管　理　係	佐藤　　順彦
管　理　係	寺田　　里美
学　生　サポーター	細田　　希星

令和３年度　国立赤城青少年交流の家 教育事業等報告書
令和４年３月
編集・発行　独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立赤城青少年交流の家
〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山 27
TEL 027-289-7224　FAX 027-289-7226
URL https://akagi.niye.go.jp/
E-mail akagi-kikaku@niye.go.jp